

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	ワタ ナベトモ ユキ 渡 邊 兼 行	職 名 人間学部	教授 心理福祉学科	取 得 学 位 (大学名)	Ph.D. タフツ大学	(取得年月) 2001年5月
-------------	-----------------------	-------------	--------------	------------------	----------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 「心理学」・「心理学概論」 3 回の間テストとそのフィードバックによる自己制御学習の促進	2017.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、中間テストを3回設け、その解答返却を1週間以内に行った。これにより、受講者の理解度の把握を助け、各自が自己の進捗を確認しながら授業に参加できるような体制を整えた。
2. 「心理学」・「心理学概論」 実験参加を評価に取り入れることによる、心理学の実証的側面の体験的理解の促進	2009.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、教員や上級生の実施する実験への参加を成績評価の一部に反映させた。これによって、心理学の実証的側面に触れる機会を設け、体験的理解を促すことを狙った。
3. 「心理学」・「心理学概論」 LMS による自学自習の促進	2013.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
4. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 毎回の予習課題の提示	2011.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
5. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
6. 「学習・言語心理学」 毎回の予習課題の提示	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。

7. 「学習・言語心理学」 LMS による自学自習の促進	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、LMS を利用して、授業資料の提示、予習課題の提出などを web 上から可能とし、学生の自学自習を促した。
8. 「心理学基礎論」 毎回の予習課題	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を作成し、課した。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
9. 「心理学基礎論」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	LMS を利用して、資料の配布、課題の提出も web 上から可能となった。
10. 「心理学基礎論」 高い比重の発言点を導入	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、活発な授業参加と学生の表現力の向上を目指して、発言の成績に対する比重を 25%とし、積極的な発言と授業参加を促した。
11. 「心理学基礎実験Ⅰ」・「心理学実験Ⅱ」のコーディネーター	2009.4～	心理学担当教員 3 名で、小グループを担当して行う実験実習の授業において、コーディネーターとして授業のプログラム作り、教員間の調整作業に従事した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 自ら実感する心理学 —こんなところに心理学—	共	2021.1	教育情報出版		土肥伊都子(編) 他 25 名	57-58 63-64
[論文]						
1. The self-choice effect from a multiple-cue perspective.	共著	2004.2	Psychonomic Bulletin & Review. 11	Watanabe, T., & Soraci, S. A.		168-172
翻訳						

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 洞察問題解決の学習と転移			2019.9	日本心理学会第 83 回大会(立命館大学)		
2. 思い出し笑いについての予備的研究			2021.8	日本笑い学会第 28 回大会(椋山女学園大学)		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会		1998
日本認知心理学会		2003
日本笑い学会		2021

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

・大学基準協会 評価委員(2022 年度)
